

【6年（話すこと・聞くこと）】

資料を効果的に使って、『夢スピーチ』をしよう（「今、私は、ぼくは」）

指導者 濱田 祐輔（天草市立本渡北小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

単元

学びの土台

これまで：話の内容が明確になるように、話の構成を考える

これから：資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する

学習課題

相手や状況、内容に合わせて資料を効果的に使い、『夢スピーチ』をしよう。

指導事項

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること
A 話すこと・聞くこと（1）ウ

思考操作

相手や状況、内容に合わせて資料を工夫する

言語活動

『夢スピーチ』をする

<立ち止まって振り返る場>

以前作ったプレゼン資料を振り返って再評価することで、資料活用が課題であることを自覚できるようにする。

<考えを表出し比較する場>

作成した資料に、意図を説明するシートを添付することで、考えを明確に表出し、他者と比較しやすくする。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

作成した資料の意図や効果について話し合うことで、どのような工夫の仕方が最適であるかを理解し、自分のスピーチ資料作りをどのように工夫するとよいかという自身の問いについての納得解を生み出せるようにする。

本時

本単元で目指す子どもの姿

相手や状況、内容に合わせて資料を効果的に活用し、自分の考えを工夫して伝えようとする子ども。それを今後の生活に継続的に生かそうとする子ども。

第6学年3組 国語科学習指導案

指導者 天草市立本渡北小学校 濱田 祐輔

- 1 単元名 資料を効果的に使って、『夢スピーチ』をしよう
「今、私は、ぼくは」(光村図書6年)
- 2 学習課題 相手や状況、内容に合わせて資料を効果的に使い、『夢スピーチ』をしよう。
- [指導事項] 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるようにする。 A 話すこと・聞くこと(1)ウ
- [思考操作] 相手や状況、内容に合わせて資料を工夫する。
- [言語活動] 『夢スピーチ』をする。

3 単元について

<教材観>

本教材では、スピーチにおいて、相手を意識したり、資料を使ったりして効果的に自分の考えや思いを伝える力の育成を図る。

その力を育成するために設定した言語活動が『夢スピーチ』である。設定の意図は大きく二つある。

一つは、互いの夢を知り、それぞれがかげがえのない存在であることを実感したり、これから迎える新しい世界への希望をもったりすることである。

もう一つは、資料等を使ってスピーチを工夫する必然性が高いことである。夢は多様であり、きっかけとなる体験を皆は知らない。知名度が低い職種や言葉を含む場合もある。その難点を克服するために、資料の活用が効果的であると気づけるようにする。

<児童観>

子どもたちは、これまで5年「提案しよう、言葉とわたしたち」で事実と感想、意見を区別して、説得力のあるように構成を工夫することを経験している。その際、資料を効果的に提示することに触れているが、具体的な工夫の仕方については学んでいない。

1学期に他教科でプレゼン発表会をした際は、資料内の文字数が多く、聞き手にとって分かりづらい資料になっていることが多かった。

<視点について>

〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

本単元に類似する学習は、5年「提案しよう、言葉とわたしたち」で経験済みである。その際、構成を考えたりスピーチメモを作成したりしてきた。これらの既習事項については、過去の学習を想起しながら本単元でも取り扱っていく。既習事項は学習の土台となるため、一つ一つ丁寧に確かめながら皆が捉えられるようにする。本単元では資料の活用に焦点化できるようにする。

学習課題を設定する場面では、自分の未来を見つめたり、友達の未来を応援したりするという『夢スピーチ』の目的を明確にする。一人一人が順に夢を語って認め合う状況をイメージできるようにする。また、修学旅行の事前学習の際に作成したプレゼン資料を皆で振り返る。この時に作成した資料は文章が長く、読み手への伝わりやすさがあまり意識されていない。そのことに気づき、資料活用の工夫が本単元での重要課題であることを自覚できるようにする。

〔視点2〕 共に学び続けるための工夫

本時において、作成した資料の伝わりやすさを話し合う際は、作成した資料だけでなく、意図を説明するシートを使って考えを表出する。このシートでは、「資料作りのポイント」のどれを意識したのかを「◎・○・ー」で示したり、意図を書いたりする。これらをロイロノートで皆が閲覧できる状態にして、友達の考えを見るだけで捉えたり、比較したりできるようにする。そこに、考えを説明したり検討したりする話し合いを加える。そうすることで、「資料作りのポイントを使うことで〜という効果があった」という実感を理由づけとして、「○○さんのような工夫が私のスピーチ資料に使いそうだ」という納得解を生み出せるようにする。

4 単元の見通し

- 文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話の構成や展開について理解することができる。(知・技) (1) カ
- ◎ 資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。A話・聞 (1) ウ
- 話の内容が明確になるように，事実と感想，意見を区別するなど，話の構成を考慮することができる。A話・聞 (1) イ
- 資料を活用して自分の考えを表現することに意欲的に取り組み，聞き手の知識や反応等に応じて効果的なスピーチにしようとする。(学・人)

5 指導と評価の計画 (7時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	○単元の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業を間近に控えていることから学習課題を設定する。 ・修学旅行の事前学習プレゼン資料から課題意識をもてるようにする。 	
〈学習課題〉 相手や状況，内容に合わせて資料を効果的に使い，『夢スピーチ』をしよう。				
		○話題(夢)を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な夢とともに，きっかけや感じたこと，これからの私等について書き出し，次時の構成検討に生かせるようにする。 	知 大体の構成を理解して，事実と感想，意見を区別しながら，スピーチ内容を書いている。 [スピーチメモ]
二	2 3	○スピーチの内容を整理し，構成を考えてスピーチメモを作成する。 ○「資料作りのポイント」を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生での学習事項を振り返りながら構成の仕方やスピーチメモの作り方を確かめる。 ・教科書を使って「資料作りのポイント」の概要を捉えられるようにする。 	思 効果を明確にしながら構成を考えている。 [スピーチメモ]
	4 本時	○例題を使って「資料作りのポイント」を具現化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自作例題の資料を使って「資料作りのポイント」の具現化を共有することで，次時の自分のスピーチの資料作りを円滑に進められるようにする。 	思 ねらいを明確にして，資料作りを工夫している。 [作成した資料・シート]
	5 6	○自分のスピーチの資料を作成する。 ○スピーチを練習し，内容を再検討したり，資料を修正したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のスピーチ資料の作成過程で，「資料作りのポイント」を視点にして個別支援する。 ・動画教材を活用して，スピーチで意識したいことを視覚的に捉えられるようにする。 	主 聞き手の知識や期待される反応を考えながら，資料を作ったり話し方を工夫したりしようとしている。 [資料・スピーチ練習]
三	7	○『夢スピーチ』を実施する。 ○単元の学びを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のスピーチ(資料活用・構成)のよさや今後を生かせそうなことについて振り返ることで，学びの定着を図る。 	知 語句の係り方や語順を文と文の関係を理解し，正しい順で正しい接続詞を使って話している。 [スピーチ]

6 本時の学習（4／7）

（1）目標

「資料作りのポイント」を例題にて具現化する活動を通して、ねらいを明確にしながら資料を工夫することができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価 [方法]	備考
10	1 単元の学習課題を確かめ、本時の課題を捉える。 2 「資料作りのポイント」を具現化した様子を確認する。	<p>○教師のかかわり ◆評価 [方法]</p> <p>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場 ○以前作ったプレゼン資料を振り返って再評価することで、資料活用が課題であることを自覚できるようにする。</p> <p>○自作スピーチを例題として再提示する。 ○例題冒頭部の3つの資料案の中からどれがよいかを検討する中で、「資料作りのポイント」を具現化した様子を捉えられるようにする。（資料作りのポイント） A：聞き手の知識や興味関心に合わせる。 B：情報をしぼり、すっきり見やすくする。（キーワード、色使い、字の大きさなど） C：図や写真などでイメージしやすくする。</p>	以前作ったプレゼン資料 シート
「資料作りのポイント」を使って、伝わりやすいスピーチ資料を作ろう。			
15	3 例題について、冒頭部以外の資料を作成する。	<p>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場 ○作成した資料に、意図を説明するシートを添付することで、考えを明確に表出し、他者と比較しやすくする。</p> <p>○資料作成とシートへの書き込みは紙媒体で行えるようにする。 ○作成した資料とシートはカメラで撮り、ロイロノートを使って児童間で閲覧できるようにする。終わった児童から閲覧できるようにして、気になった資料については、学習活動4で尋ねられるようにする。</p>	タブレットPC（ロイロノート）
15	4 作成した資料の意図や効果について話し合う。	<p>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実 ○作成した資料の意図や効果について話し合うことで、どのような工夫の仕方が最適であるかを理解し、自分のスピーチ資料作りをどのように工夫するとよいかという自身の問いについての納得解を生み出せるようにする。（※学習活動4・5において）</p> <p>◆「資料作りのポイント」を使い、ねらいを明確にして適切な資料を作っている。</p>	
5	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	<p>[作成した資料・シート] ○本時で例題について自作した資料のよさや改善点を振り返り、自分のスピーチ資料での工夫の仕方を問うことで次時への活動への見通しをもてるようにする。</p>	